

Q2 症状について教えてください。

10人に1人が
子宮内膜症!



子宮内膜症の患者数は増加傾向にあり、子どもを産み育てる世代の約10%がかかっているといわれています。また、近年では発症年齢が下がり、10代後半にも多くみられるようになってきました。子宮内膜症は月経血の逆流が原因とされているため、月経回数が多いほど発症リスクが上がります。現代の女性は初経の低年齢化、初産の高年齢化、出産回数の減少などによって生涯の月経回数が昭和初期以前の女性と比べて約10倍にもなりました。医療の進歩により発見しやすくなったことに加え、この月経回数の増加が発症リスクを増やしていると考えられています。

A 最も多い症状は月経痛です。激しい痛みのために寝込んでしまう人も少なくありません。ダグラス窩深部病変の場合は、子宮と直腸の癒着によって排便痛や性交痛なども起こります。そのほか、月経時以外の下腹部痛、腰痛、不正出血、月経異常（過多月経）、頭痛、便秘、吐き気、嘔吐などさまざまな症状が現れることがあります。

障害、卵管癒着、腹膜病変による腹腔内の癒着などから不妊になるケースが多くみられます。強い月経痛が起こる原因の一つとして考えられているのは、子宮内膜症の人は生理活性物質「プロスタグランジン」が通常よりも多く分泌されることです。プロスタグランジンには平滑筋（内臓や血管壁にある筋肉）を収縮させる作用があり、月経血の排出や分娩にも関係しています。この作用によって子宮の収縮が強くなるため、激しい月経痛が起こるといわれています。

A 月経時以外の下腹部痛や性交痛、排便痛なども

教えて
ドクター!



知っておきたい 健康相談室

強い月経痛や不妊を招く

子宮内膜症

「月経痛（生理痛）は誰にでもあるもの」と、強い痛みをがまんしていませんか？日常生活に支障をきたすほどのひどい月経痛を起こす原因の一つが「子宮内膜症」です。不妊を招くこともありますので、鎮痛薬が手放せない人、鎮痛薬を服用しても痛みが治まらない人は要注意です。



監修 大山 香
おおやま・かおり
対馬ルリ子女性ライフクリニック銀座 勤務
日本産婦人科学会専門医
昭和大学医学部卒業後、昭和大学産婦人科入局。
昭和大学付属病院や関連病院を経て、2017年より同クリニック勤務。

Q3 婦人科ではどんなことをするのか不安です。

卵巣 チョコレート嚢胞とは？

卵巣にできた子宮内膜は、月経期になるとはがれて出血を起こします。卵巣には血液を排出する出口がないため、血液の多くは卵巣内にたまりまわります。それが古くなるとチョコレート色になることから名付けられました。

この卵巣チョコレート嚢胞は、がん化しやすいことがわかっています。40歳以上の人や若くても嚢胞の直径が10センチ以上ある場合は、とくにリスクが高いといわれています。

子宮内膜症は再発することが多い病気です。子宮・卵巣を摘出する根治手術をしないかぎり、長期にわたる経過観察が必要となります。

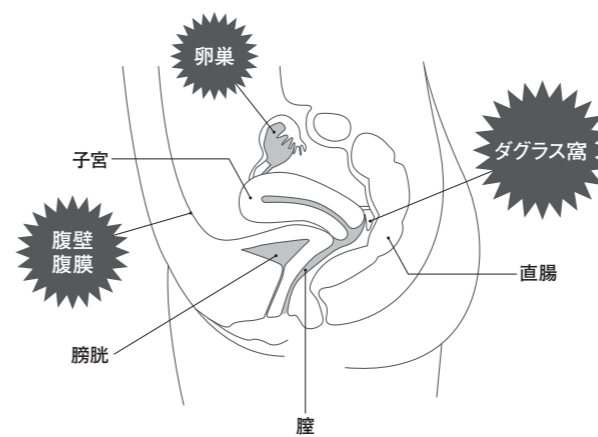
A 医師がきちんと話を聞き、わかりやすく説明してくれるかなどをポイントに、自分に合う病院（医師）を選びましょう。婦人科では、問診に続いて内診を行います。性交痛や排便痛がある場合は肛門から指を挿入して調べる直腸診を行うことがあります。次に超音波検査で子宮、卵巣の状態を診ます。また、血液検査では腫瘍マーカー（CA125）の数値や貧血、炎症反応などを調べます。超音波検査で卵巣チョコレート嚢胞が確認された場合は、MRI検査で詳しく調べます。子宮内膜症は、腹腔鏡検査などで病変を直接見なければ確定診断はできません。

が、多くは超音波検査や血液検査などによる臨床診断によって治療に進みます。治療法には、大きく分けて薬物療法と手術療法があります。薬物療法には、鎮痛薬や漢方薬を用いて痛みを緩和する対症療法と低用量ピルや黄体ホルモン製剤、GnRHアゴニストなどを使うホルモン療法があります。手術療法には、病巣だけを取り除き、妊娠の可能性を残す保存手術と、子宮や卵巣をすべて取り除く根治手術があります。治療法を選ぶときは、症状や年齢、妊娠の希望などを考慮するため、医師とよく相談して決めましょう。

A 安心して受診できる 自分に合った病院を

Q1 子宮内膜症とはどんな病気ですか？

子宮内膜症が発生しやすい場所



子宮内膜症の主な種類には、卵巣にできる「卵巣チョコレート嚢胞」、腹膜にできる「腹膜病変」、ダグラス窩にできる「ダグラス窩深部病変」などがあります。

A 子宮内膜に似た組織が別の場所に発生する病気

子宮内膜症とは、子宮の内側を覆う子宮内膜とよく似た組織が、本来とは違う場所に発生してしまう病気です。子宮内膜は女性ホルモンの働きで受精卵が着床できるように厚くなりますが、妊娠が成立しなかった場合ははがれ落ち、月経血として膈から体外へ排出されます。このように子宮内膜は周期的に増殖・剥離をくり返しますが、本来の場所以外に発生した子宮内膜組織も同じように増殖・剥離して出血を起こします。しかし、それらの子宮内膜組織は剥離しても出口がありません。そのため、血液が体内にとどまることで炎症が起きたり、臓器との癒着が起きたりします。なぜ起こるのかについては明らかになってはいませんが、月経血が卵管を逆流して卵巣や腹膜、骨盤内の臓器と臓器の間に付着することが発生原因の一つとして考えられています。子宮内膜症は強い月経痛や不妊を招くため、女性にとって悩ましい病気となっています。